

【モニター委嘱式】 Vol.5

4月27日、青森市でAOMORI春フェスティバルが開催されました。夏を待ちきれない、ねぶたハネトの躍動感に溢れた踊りと街が揺れんばかりの掛け声(ラッセラー)に感動です。今年には青森開港400年、みなとまち・あおもり誕生記念キックオフイベントも同時に行われ、市民の手によって青森ベイブリッジから放たれた、青函連絡船の出航をイメージした800本の紙テープが春風に舞っていました。これから2年間、400年を記念した様々なプロジェクトが開催されますが、この機会に海と共に発展してきた青森400年の歴史に思いを馳せ、地域愛を育てていきたいと思えます。

さて、4月3日に防衛モニター委嘱式を地方協力本部で行いました。防衛モニターとは日頃から防衛問題等へのご関心が高い方に各種イベントへの出席や訓練見学等で感じた自衛隊に関する意見や要望を伺って、今後の諸施策に反映させることを目的とした制度であり、任期は1年となっています。

防衛省自衛隊は昨年で創設70年を迎えました。青森港開港400年の歴史には及びませんが、私が幹部任官時に読んだ司馬遼太郎の「坂の上の雲」の中で秋山真之が正岡子規に語っていた言葉を思い出します。「たとえば軍艦というものはいちど遠洋航海に出て帰ってくると、船底にかきがら(牡蠣殻)がいっぱいくっついて船あしがうんとおちる。人間も同じで、経験は必要じゃが、経験によってふえる智恵とおなじ分量だけのかきがらが頭につく。智慧だけ採ってかきがらを捨てるということは人間にとって大切なことじゃが、老人になればなるほどこれができぬ。」防衛モニターさんからのご意見に真摯に耳を傾け、自衛隊は新たな歴史に向かって進化を続けて参ります。